

## 弥陀の光・私の闇

笠松別院輪番・第6組西岸寺 澁谷 由美

笠松別院の境内地には保育園があります。

今年、年度始めのコロナ禍によって、はじめての「休園」を体験しました。

そんな中、保育園の電話がなりました。

「保育園は、いつからはじまりますか？」

保護者には、休園期間がすでに知らせてあります。

入園希望者で、突然の休園に入園が延びている人だろうか？

自宅で子どもたちと過ごす毎日に我慢できず、待ちかねての連絡だろうか？

電話を受けた職員も、頭の中でいろいろ思いが駆け巡ります。

電話は、「××までの予定です」という職員の受け答えで切られました。

1週間ほど経ったある日、また電話が鳴りました。

「保育園はいつまで休みですか？ 隣の子どもがやかましくて困っている」

先週の電話ときっと同じ人だ、と職員間で話題になりました。

その後休園はさらに延長され、しばらくすると保育園に無記名のハガキが届きました。

「隣の子どもたちがやかましい。親に、うちでは静かに過ごすよう保育園から連絡して

もらえないか」

親鸞聖人はおっしゃいます。人間には深い闇がある、と。

闇とは、自分中心でしか生きられない、ということです。

阿弥陀さまは、そんな私を光となって照らしてくださいます。

光によって、おのれの闇が照らされるのです。

ああ、自分中心の生き方をしているな、と気づかせてくれるのです。

光に照らされおのれの闇に気づく、つまりお念仏の教えに出会い私のかかえている闇が

ハッキリするのです。

考えてみれば、ああ、そうだったな、と、今まで何度思ったことでしょう。

摂取不捨。阿弥陀さまは何があっても私を見捨てません。

今日もまた、闇の中にいる私を、闇をかかえている私を、阿弥陀さまは照らしてくださ

います。